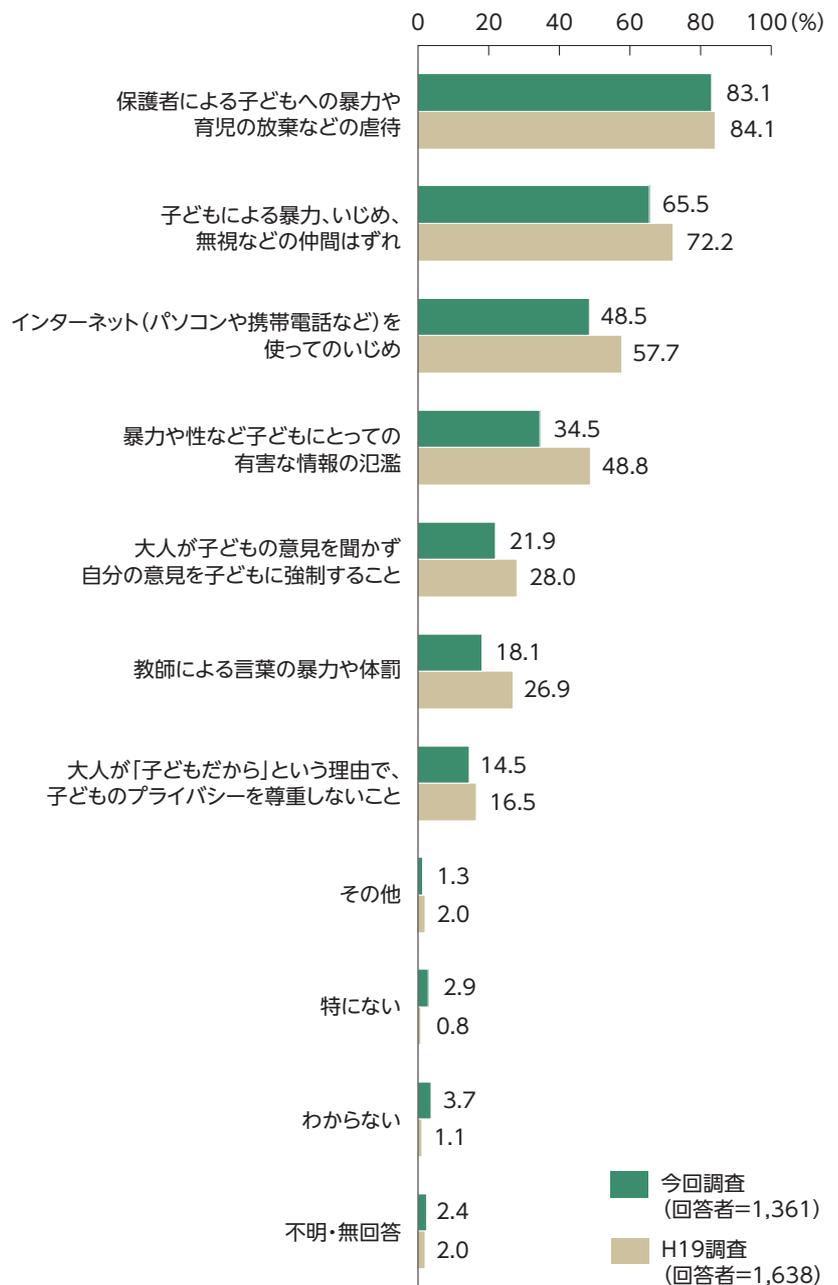


子どもの人権

Q9

子どもに関する人権上の問題について、現在、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか 複数回答

「保護者による子どもへの暴力や育児の放棄などの虐待」が83.1%と最も高く、次いで「子どもによる暴力、いじめ、無視などの仲間はずれ」が65.5%、「インターネット(パソコンや携帯電話など)を使ってのいじめ」が48.5%となっています。



コラム 虐待から子どもを守る

気になる子どもがいたら、ためらわずに相談してください。



児童虐待は、子どもの心と体に深い傷を残すだけでなく、尊い命を奪いかねないものであり、社会全体で解決しなければならない課題です。

虐待を見かけたり、少しでも気になる子どもがいたら、ためらわずに市町村(児童福祉担当課)や管轄の児童相談所に相談してください。

児童相談所全国共通ダイヤル 0570-064-000



「オレンジリボン運動」は、子ども虐待防止のシンボルマークであるオレンジリボンを通じて、虐待をなくすことを呼びかける運動です。

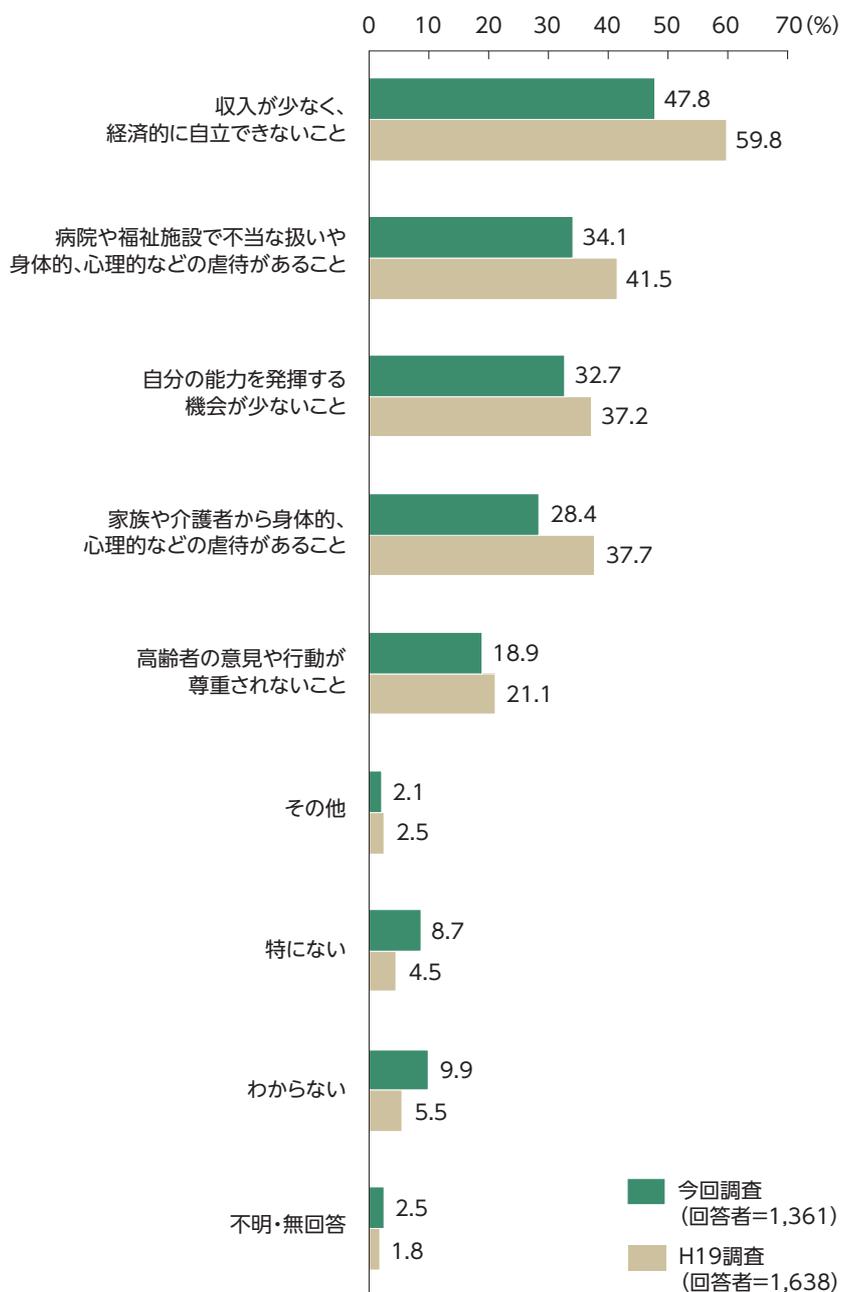
高齢者の人権

Q10

高齢者に関する人権上の問題について、現在、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか

複数回答

「収入が少なく、経済的に自立できないこと」が47.8%と最も高く、次いで「病院や福祉施設で不当な扱いや身体的、心理的などの虐待があること」が34.1%、「自分の能力を発揮する機会が少ないこと」が32.7%となっています。



コラム 高齢者がいきいきと暮らせる社会へ

年齢にかかわらず働くことのできる社会の実現が必要です。



平均寿命の伸びや少子化の影響から、高齢化が急速に進んでいます。また、豊富な知識を持った高齢者が、住み慣れた地域で生活し続け、地域社会のさまざまな活動ができるような社会環境づくりが求められています。このような実情を踏まえ、2006(平成18)年度から、段階的に65歳までの雇用が義務化されました。65歳までは継続して働ける雇用環境の整備を進め、さらに健康で意欲と能力があれば、年齢に関わりなく働くことのできる「生涯現役社会」の実現を目指す必要があります。

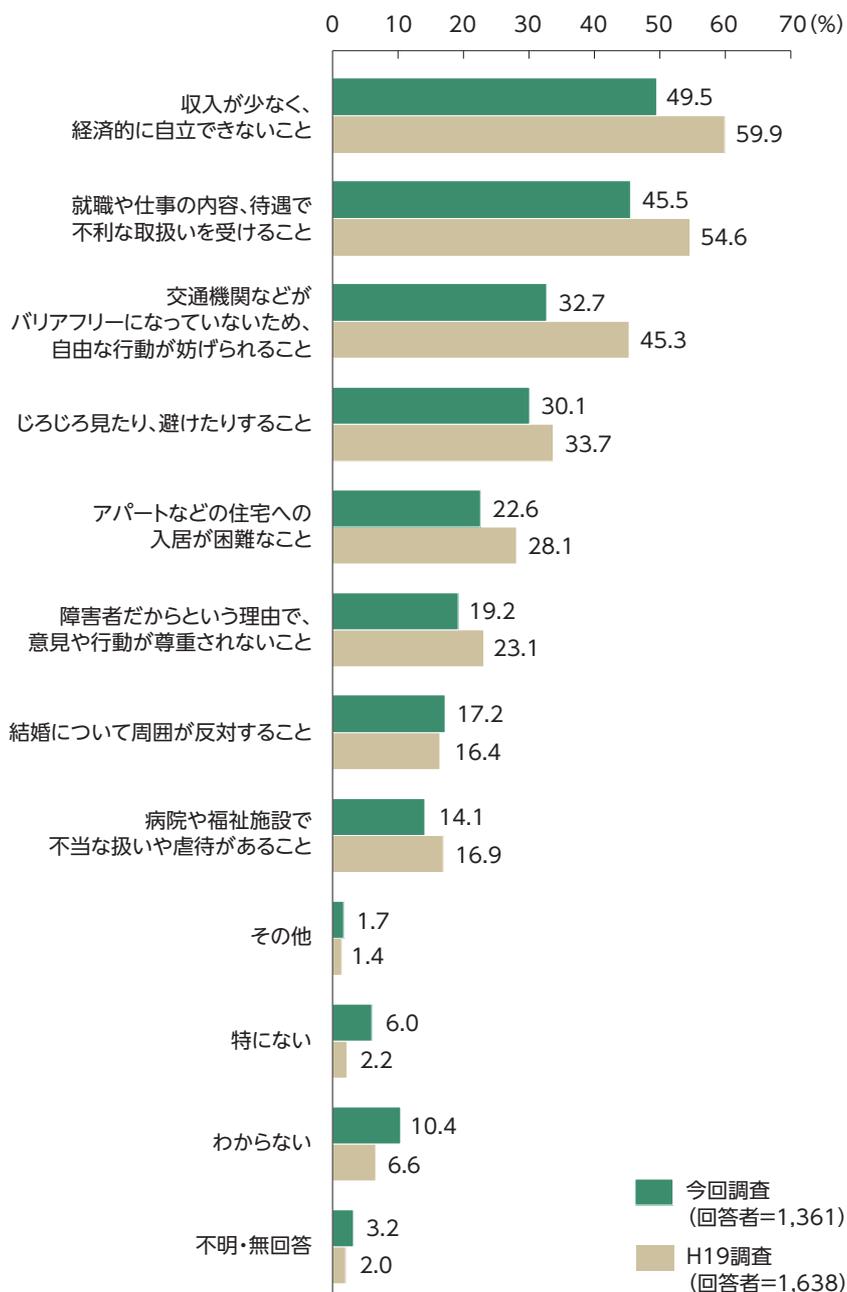
障害者の人権

Q11

障害のある人に関する人権上の問題について、現在、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか

複数回答

「収入が少なく、経済的に自立できないこと」が49.5%と最も高く、次いで「就職や仕事の内容、待遇で不利な取扱いを受けること」が45.5%、「交通機関などがバリアフリーになっていないため、自由な行動が妨げられること」が32.7%となっています。



コラム バリアフリーを考えよう

障害があっても、自由に出かけられ、自分らしい生活ができる環境を。

「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）」が2006（平成18）年に施行されました。この法律は、高齢者、障害者等の移動上及び施設の利用上の利便性や安全性の向上を図るものです。また、差別や偏見といった、心の中のバリア（障壁）を取り除くことが、一人ひとりに求められています。



バリアフリー浮橋



バリアフリーガイドブック

外国人の人権

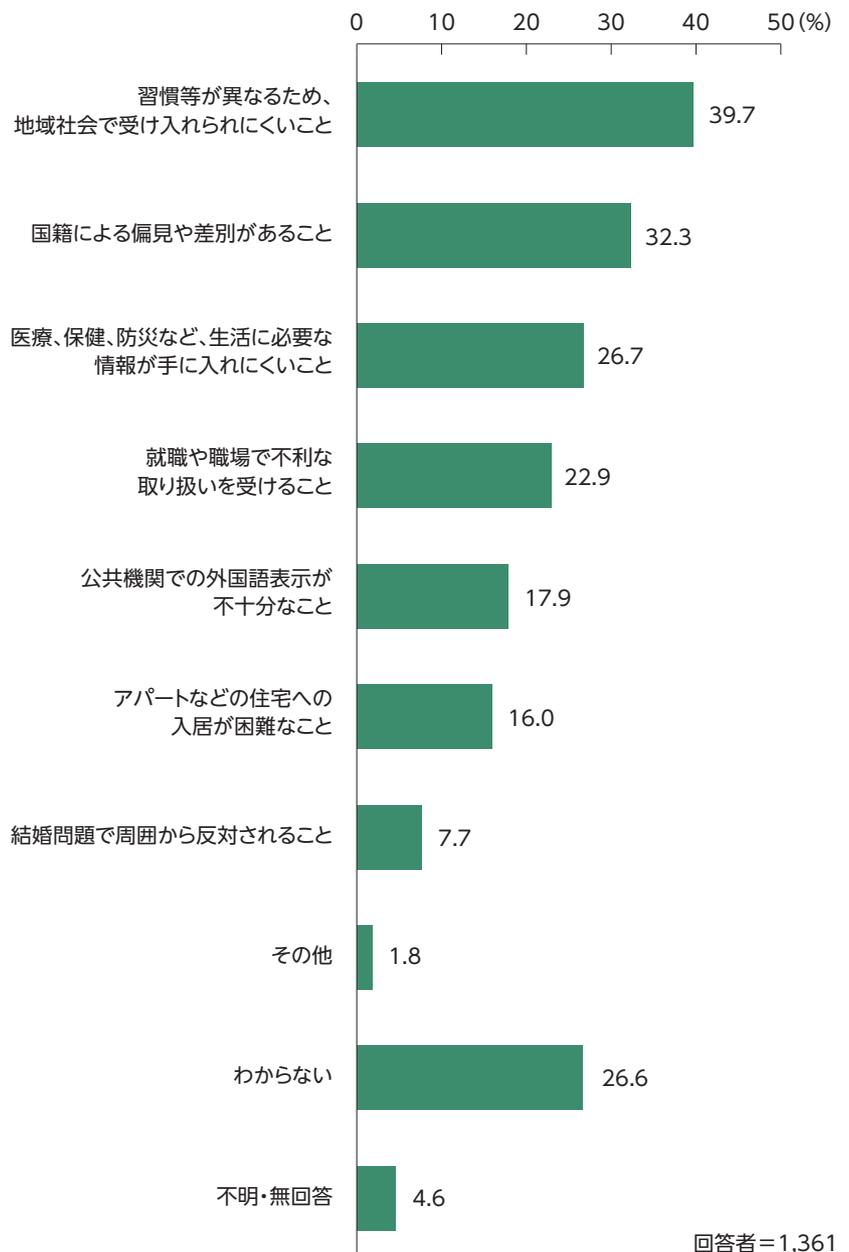
Q12

外国人に関する人権上の問題で、
現在、特に問題となっているのは
どのようなことだと思いますか

複数回答

「習慣等が異なるため、地域社会で受け入れられにくいこと」が39.7%と最も高く、次いで「国籍による偏見や差別があること」が32.3%、「医療、保健、防災など、生活に必要な情報が手に入れにくいこと」が26.7%となっています。

※今回調査初出項目



コラム 多文化共生社会へ

お互いの文化的違いを認め合い、ともに生きていく
多文化共生社会を築くことが大切です。



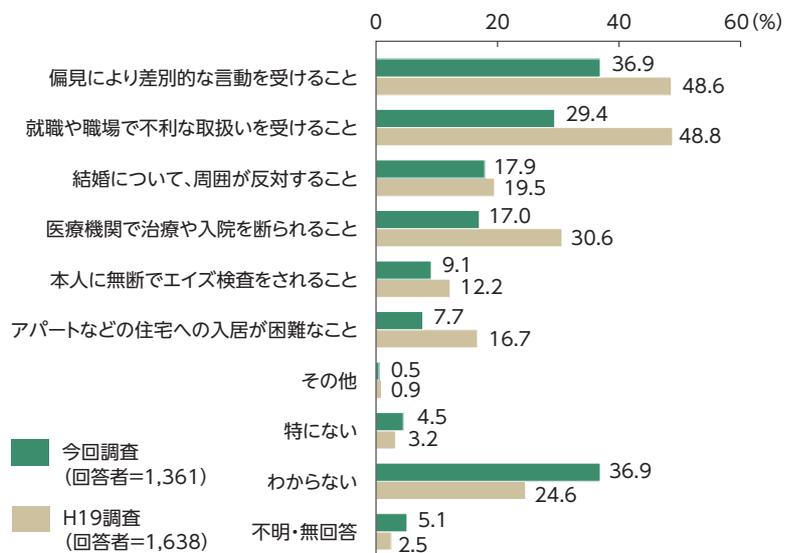
外国人であることを理由に、部屋を貸してもらえない、公衆浴場などの利用を断られるなどの人権侵害が起こっています。その理由が、文化の違いやコミュニケーションの不足によるものです。また、国籍を隠すため、学校や地域社会において本名を名乗れずに暮らしている在日韓国・朝鮮人等の人もいます。お互いの文化的違いを認め合い、地域社会の構成員としてともに生きていく多文化共生社会を築くことが大切です。

HIV 感染者等の人権

Q13

エイズ患者・HIV(エイズウイルス)感染者に関する事柄で、現在、特に人権上問題があると思うのはどのようなことですか 複数回答

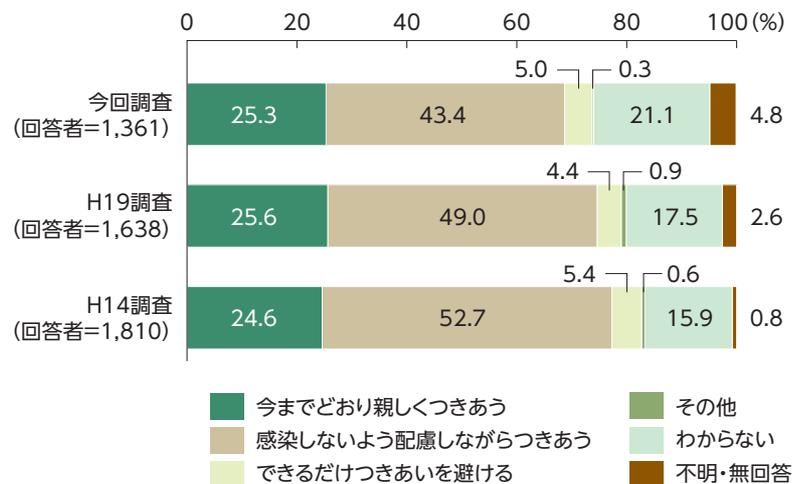
「偏見により差別的な言動を受けること」が36.9%と最も高く、次いで「就職や職場で不利な取扱いを受けること」が29.4%となっています。一方、「わからない」が36.9%と、H19調査との比較でも高くなっています。



Q14

仮に、あなたが職場や地域などで日ごろ親しくつきあっている人がHIV感染者であることがわかった場合、あなたはどのようにしますか

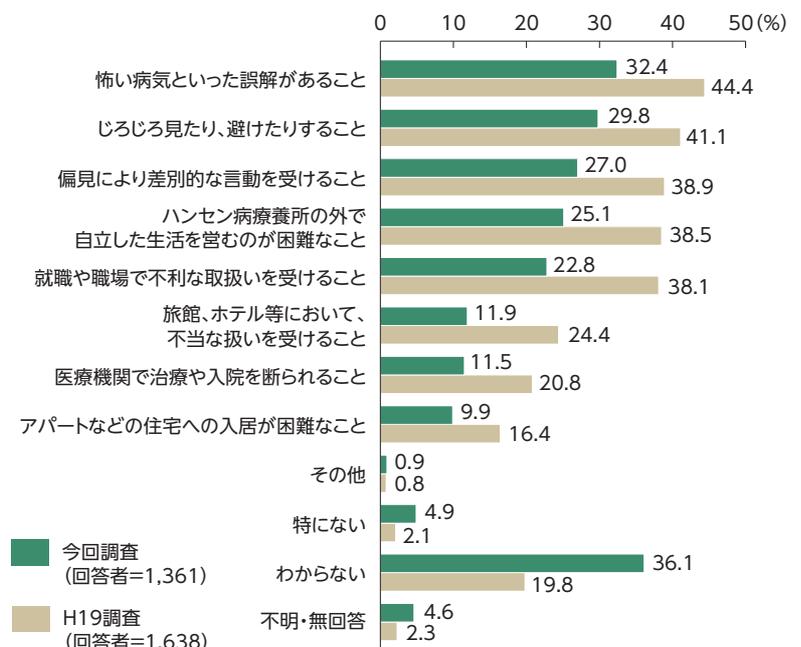
「感染しないよう配慮しながらつきあう」が43.4%と最も高く、次いで「今までどおり親しくつきあう」が25.3%となっています。「今までどおり親しくつきあう」は25%前後と大きな変化はないものの、「わからない」が調査毎に高くなっています。



Q15

ハンセン病患者・回復者に関する事柄で、現在、特に人権上問題があると思うのはどのようなことですか 複数回答

「怖い病気といった誤解があること」が32.4%と最も高く、次いで「じろじろ見たり、避けたりすること」が29.8%となっています。一方、「わからない」が36.1%と、H19調査との比較でも高くなっています。

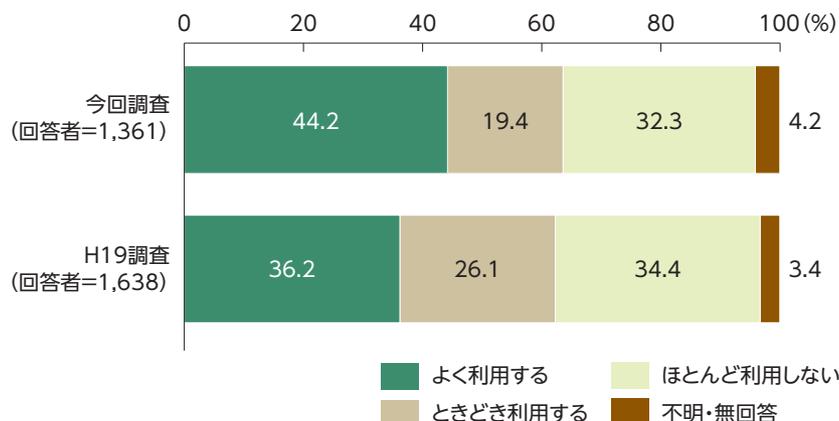


インターネットと人権

Q16

あなたは、インターネット(パソコンや携帯電話など)をどのくらい利用しますか

「よく利用する」が44.2%と最も高く、次いで「ほとんど利用しない」が32.3%、「ときどき利用する」が19.4%となっています。

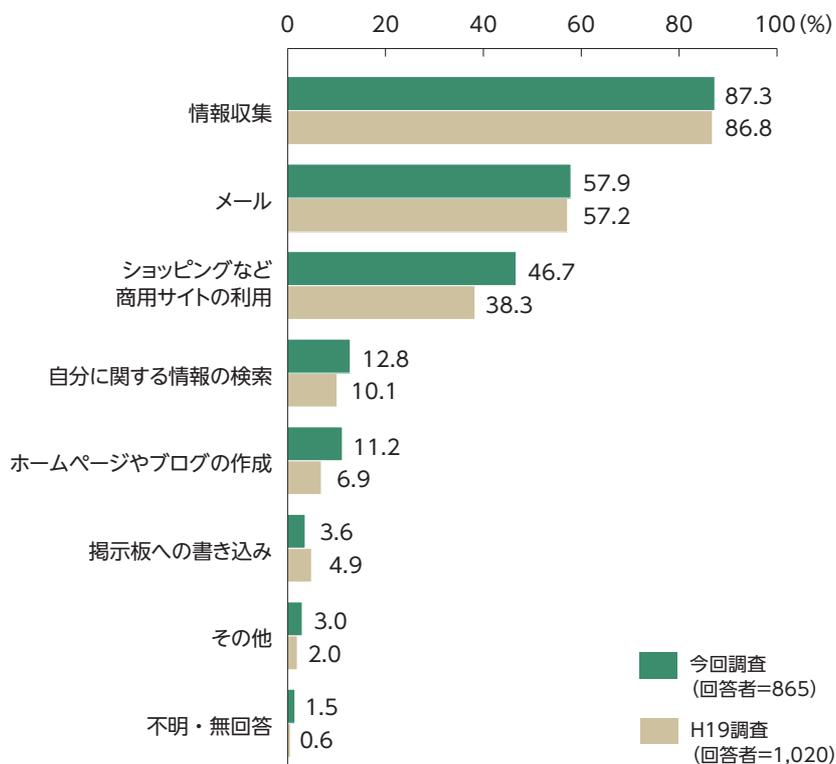


Q17

利用目的は、どのようなことですか

複数回答

「情報収集」が87.3%と最も高く、次いで「メール」が57.9%、「ショッピングなど商用サイトの利用」が46.7%となっています。



コラム プロバイダ責任制限法

万が一、インターネット上で人権侵害があったときは、プロバイダなどに削除依頼が可能です。

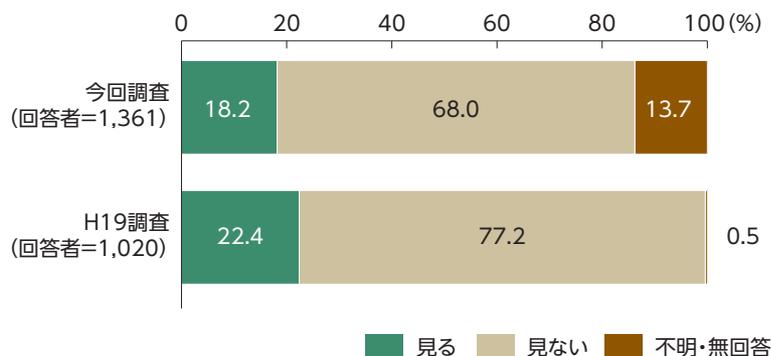


ホームページや掲示板上で、プライバシーの侵害や誹謗中傷の書き込みなどの人権侵害を受けた場合は、プロバイダやサーバーの管理・運営者に、情報の削除依頼が可能です。さらに「プロバイダ責任制限法」により、人権侵害情報を書き込んだ人の情報開示を請求することも可能です。自らの依頼が困難な場合は、法務省の人権擁護機関から削除を要請することも可能です。

Q18

インターネット上で、他人を誹謗中傷するなど、人権侵害と思われるような書き込みやホームページを発見した場合、あなたはそのような内容のページを見ますか

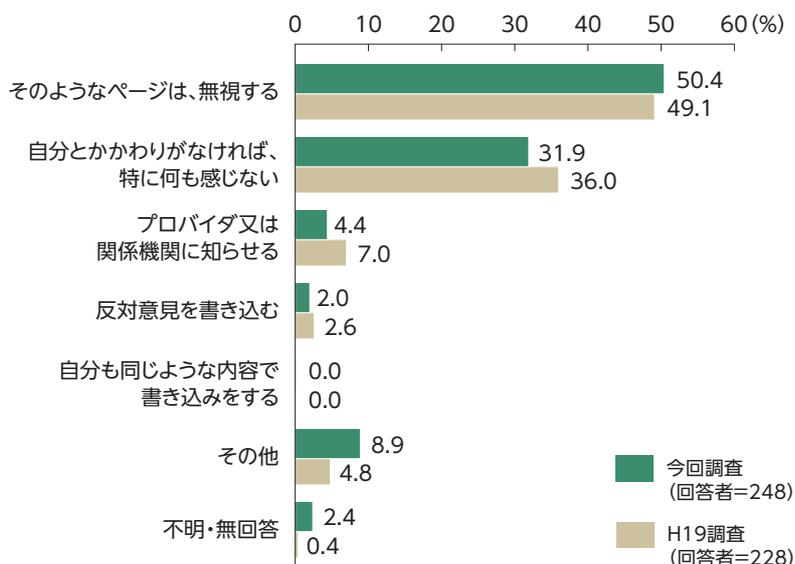
「見ない」が68.0%、「見る」が18.2%となっています。H19調査と比較すると、「見る」は4.2ポイント、「見ない」は9.2ポイント低くなっています。



Q19

そのようなページを見たとき、どのようにされますか

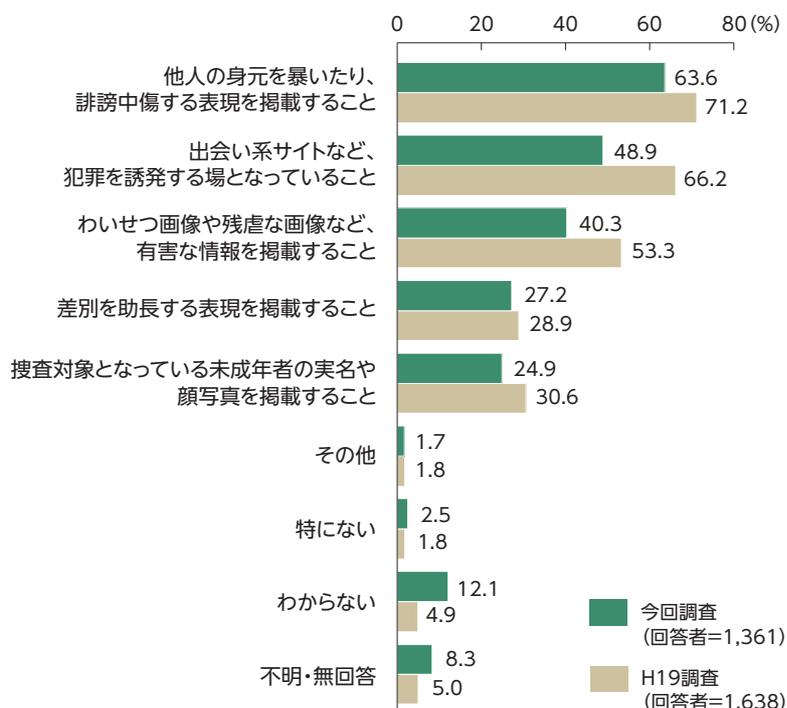
「そのようなページは、無視する」が50.4%と最も高く、次いで「自分とかわかりがなければ、特に何も感じない」が31.9%、となっています。



Q20

インターネットによる人権侵害に関して、現在、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか 複数回答

「他人の身元を暴いたり、誹謗中傷する表現を掲載すること」が63.6%と最も高く、次いで「出会い系サイトなど、犯罪を誘発する場となっていること」が48.9%、「わいせつ画像や残虐な画像など、有害な情報を掲載すること」が40.3%となっています。



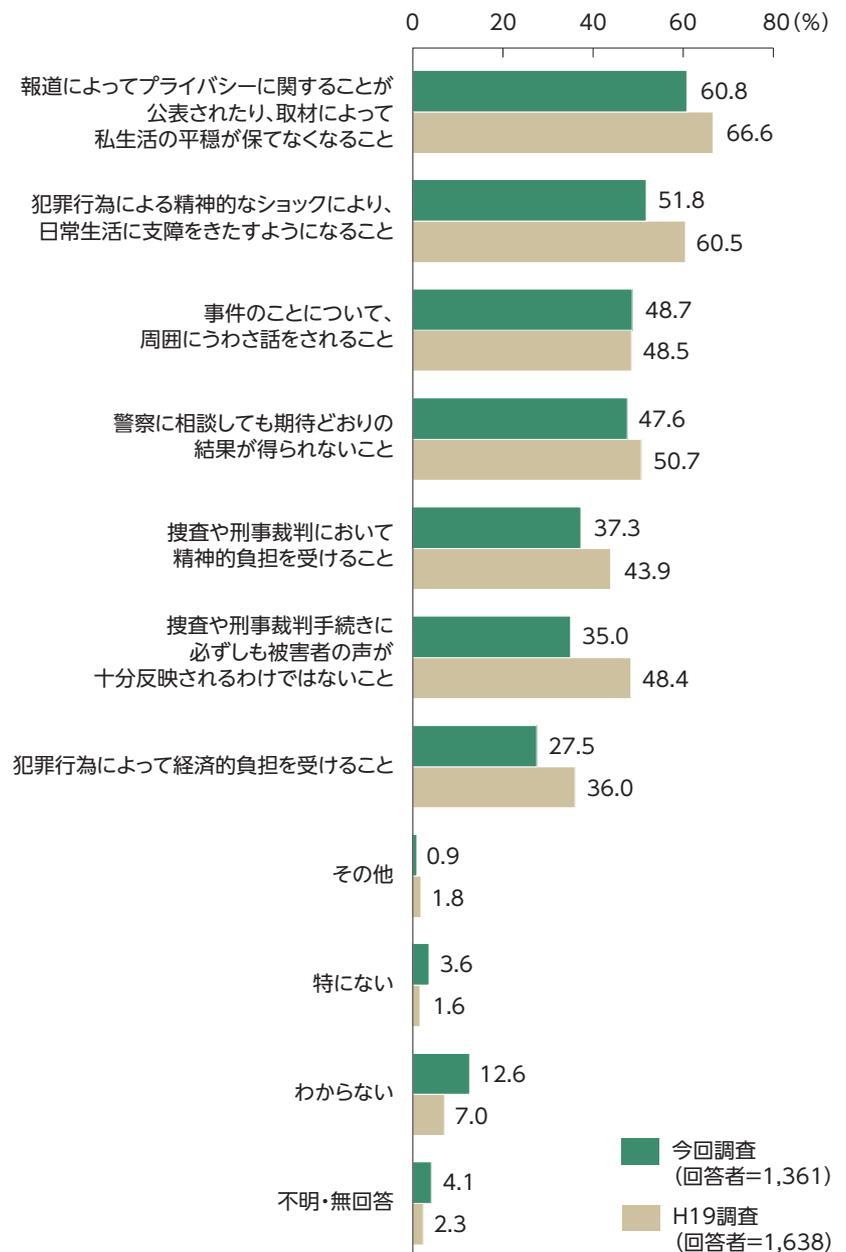
犯罪被害者の人権

Q21

犯罪被害者に関する人権上の問題で、現在、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか

複数回答

「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなること」が60.8%と最も高く、次いで「犯罪行為による精神的なショックにより、日常生活に支障をきたすようになること」が51.8%、「事件のことについて、周囲にうわさ話をされること」が48.7%となっています。



コラム 犯罪被害者やその家族のいたみ

直接的な被害のみならず、被害にあったことによる精神的な苦痛や身体の不調に悩まされています。



犯罪被害者やその家族は、命や財産を奪われる、身体を傷つけられるといった直接的な被害のみならず、被害後に生じる二次的被害といわれるさまざまな問題に苦しめられています。

二次的被害とは、被害にあったことによる精神的な苦痛や身体の不調、捜査・裁判の過程での精神的・時間的負担、「被害にあったのは被害者にも原因がある」というような周囲の人々のうわさや中傷、マスメディアの報道等によるプライバシーの侵害などです。また、一家の生計を維持する者を失い、生活が苦しくなる遺族もいます。